

学校通信

学校教育目標：「社会人基礎力の育成」

令和3年2月1日 第27号 四万十町立大正中学校



3年生総合的な学習の時間

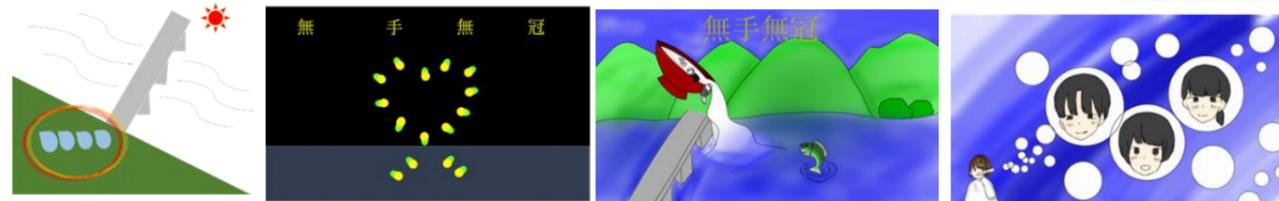
1月23日（土）に3年生が一年間取り組んできた「地元企業から頂いた課題」を解決していく取り組みの発表を行いました。



無手無冠さんより

課題：「日本酒の瓶を飾るラベルデザインを作成する」

生徒たちは「無手無冠」の名前の由来を調べ、番頭の福永さんからどのようなイメージをもってラベルのデザインを考えていったらいいのか、お話を聞いたうえで考えていきました。アンケートも取り、様々な角度からデザインを検討していきました。デザインの数、約40作品。発表ではその中から選んだ15作品を披露しました。今後はさらに作品を絞り込み、実際にラベルとして貼って頂ける予定です。



森林組合さんより

課題：「四万十ヒノキを用いて、コロナウイルス対応の視点を持って、巣ごもり生活に役立つグッズの開発」

森林組合の林さんの指導を頂きながら、生徒たちは四万十ヒノキを用いたグッズの開発に挑みました。カタログやインターネットを利用して様々な製品・グッズを調べ、コロナ禍の中で必要とされるグッズを考えていきました。試行錯誤していくなかで、避難生活を余儀なくされる場面があった場合に避難所で感染防止するためのパーテーションの作成にアイデアがひらめきました。単に板を使って使用するだけでなく、持ち運びの事やコストの事を考えて軽量化に向けた製品の開発を行いました。障子の枠のように空洞をつくり、紙を使ったパーテーションを作成しました。実際に活用されるといいですね。



吞んで家さんより

課題：「大正地域の食材を使って、ふるさとをイメージした新しいメニューの開発」

吞んで家の御主人・三谷さんから課題を頂いて生徒たちがまず取り組んだことは、地域の食材をリサーチすることでした。鮎・川えび・椎茸・たけのこ・米・酒など様々な食品を見つけました。そこから考えたメニューは十数種類。三谷さんに監修して頂きながら調理して再現していきました。食材の活用やお客さんの好み、コストのことを考え試行錯誤し、調理実習も3回行い最終提案メニューを絞り込んでいきました。この中から実際にメニューとして採用されるといいですね。



生徒たちの感想（抜粋）

「商品として売るにあたって、多様な視点から考えることが難しかった。」
「コストを抑え利益を多く出すことも大切。」「製品を考えて、作るまでの過程が、いろいろと試行錯誤をしなければならないので大変だった。」
「依頼者と消費者の声を聞きながらアイデアを形にすることが仕事として大切なことだと分かった。」「選択肢の多さからくるアイデア創造の難しさを知った。」

中学生で実際に製品化へ向けて取り組ませて頂き、生徒達にとって本当に貴重な体験となりました。ただ品質の良い品物・商品・デザインを考えてつくるだけでなく、相手意識をもち、お客様に喜ばれ満足して頂くためにはそれ相応のリサーチ・研究を行い相手の心に響く品物をお届けする心構えと実行力が必要になることを学んだことと思います。

世の中を幸せにしていくために、「仕事」というものが存在しているのであれば、「仕事」について真剣に考えていくとき、まずは自分自身の「生き方」「あり方」をしっかりと見つめることが大切になります。将来、相手と自分の幸せを実現していくためにしっかりと仕事選びをしていってほしいと思います。

大正中学校として初めての取り組みに快くご協力くださいました、森林組合様、無手無冠様、吞んで家様、誠にありがとうございました。

また、生徒達と一緒に初めての取り組みに果敢に挑戦して下さった3年団の先生方、ありがとうございました。次世代を担う社会人を育成する取り組みとして、さらに進化させていきたいと思います。

